

作成年月日： 2021年 9月 24日（Ver.1.0）

久留米大学では、受診時に患者さんから取得された試料と診療情報等を使用して下記の研究を行っています。本研究で使用される試料・診療情報等は他機関への提供は行いません。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の承認を得て実施しています。当該試料・診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で試料・診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

【研究課題名】化学療法による組織変化の過程で膵癌はPD-L1を発現するのか

【試料・診療情報の対象者（研究対象者）】

- 1) 受診期間：2000年1月から2020年12月までの間に受診
- 2) 受診科：久留米大学病院外科
- 3) 対象疾患名：膵癌と診断された方(術前化学放射線療法が行われた後に膵切除された方)

【試料・診療情報等の項目】

試料：【組織(病理組織標本)】

診療情報等：【病歴、診断名、年齢、性別、病状経過、既往歴、CT・MRI画像、血液検査データ等】

【研究目的】

膵癌は、治療抵抗性の腫瘍として知られています。膵癌の組織型の多くは管状腺癌です。近年、膵癌に対する治療法は手術に加えて、放射線や化学療法を併用した新たな治療法が導入され、一定の効果が得られるようになりました。しかし、依然として十分な結果が得られているとは言いがたく、新たな治療法の確立が望まれています。そのような中であって、昨今の研究では、PD-L1により、過剰な免疫応答から回避する「免疫逃避経路」の解明に至り、「免疫逃避経路」に対する免疫チェックポイント阻害剤が一部の悪性腫瘍に有効であると報告され、注目されています。膵癌では抗腫瘍薬による細胞や組織の変性がおこる過程で炎症細胞が多数出現することが知られており、PD-L1の発現を獲得した腫瘍細胞は免疫逃避により残存し、その後の腫瘍の増殖や転移を生じさせる可能性が考えられます。化学放射線療法によって炎症細胞浸潤を伴った膵癌で、PD-L1の発現を確認し、免疫チェックポイント阻害剤が用いることができれば、膵癌における新たな治療法となることが予想されます。今回、術前化学放射線療法が行われた後に外科切除された病理組織標本におけるPD-L1の発現について検討を行います。

【研究（利用）期間】研究実施許可日から西暦2026年9月末まで

【利益相反に関する事項】

本研究は、科学研究費助成事業の支援を受け実施します。特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません。

【問い合わせ先】

研究責任者（使用する試料・情報の管理責任者）：久留米大学医学部病理学講座 谷川 雅彦

問い合わせ担当者：久留米大学医学部病理学講座 谷川雅彦

電話：0942-31-7546

研究番号 21169

E-mail: tanigawa\_masahiko@med.kurume-u.ac.jp